

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

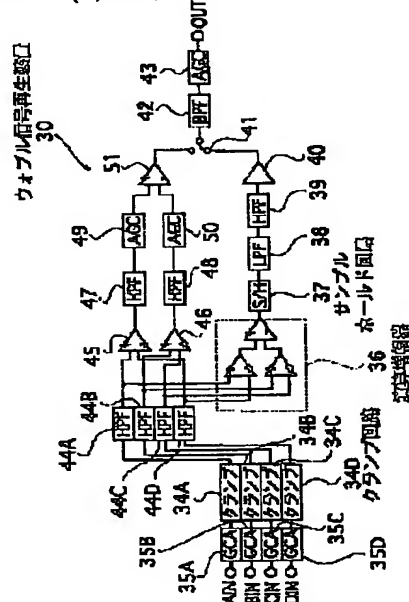
(11) Publication number: **2002352437 A**(43) Date of publication of application: **06.12.02**(51) Int. Cl. **G11B 7/005**(21) Application number: **2001158234**(71) Applicant: **SONY CORP**(22) Date of filing: **28.05.01**(72) Inventor: **HAYASHIDA YOSHIE**(54) **WOBBLE SIGNAL REPRODUCING DEVICE AND OPTICAL DISK APPARATUS**

COPYRIGHT: (C)2003, JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a wobble signal reproducing device and an optical disk apparatus which can deal with a high-speed recording, in which a wobble signal is reproduced properly by reducing the effect of a disk eccentric component.

SOLUTION: In the front stage of an operational amplifier 36 which outputs the level-difference between first output signals AIN and DIN and second output signals BIN and CIN, clamp circuits 34A-34D, which mask a signal component at the level greater than the read level component included in the first and the second output signals, and high-pass filters 44A-44D, which have a cut-off frequency higher than the eccentric frequency and lower than the wobble frequency, are provided, thereby the eccentric level is reduced and the output gain of the operational amplifier 36 can be increased. Thus, the wobble signal is reproduced with a high quality.



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-352437
(P2002-352437A)

(43)公開日 平成14年12月6日(2002.12.6)

(51)Int.Cl.
G 1 1 B 7/005

識別記号

F I
G 1 1 B 7/005

テーマコード(参考)
B 5 D 0 9 0

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願2001-158234(P2001-158234)

(22)出願日 平成13年5月28日(2001.5.28)

(71)出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72)発明者 林田 佳恵

福岡県福岡市早良区百道浜2-3-2 ソ

ニーセミコンダクタ九州株式会社内

(74)代理人 100072350

弁理士 飯阪 泰雄

Fターム(参考) 5D090 AA01 BB04 CC05 DD03 DD05

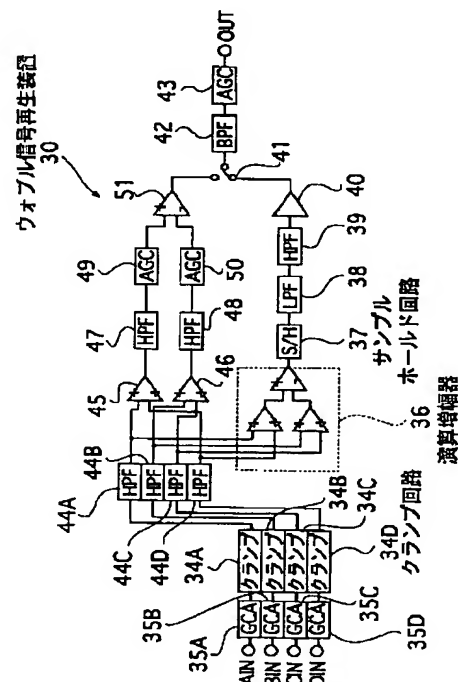
EE17 GG03 GG28

(54)【発明の名称】 ウォブル信号再生装置及び光ディスク装置

(57)【要約】

【課題】 ディスクの偏心成分による影響を低減してウォブル信号再生の適正化を図り、高速記録にも対応可能としたウォブル信号再生装置及び光ディスク装置を提供すること。

【解決手段】 第1の出力信号A IN, D INと第2の出力信号B IN, C INとのレベル差を出力する演算増幅器36の前段に、第1及び第2の出力信号に含まれるリードレベル成分よりも大レベルの信号成分をマスクするクランプ回路34A~34Dと、偏心周波数よりも高くウォブル周波数よりも低いカットオフ周波数を有するハイパスフィルタ44A~44Dを設けることにより、偏心レベルを低減すると共に演算増幅器36の出力ゲインの増大を可能とし、ウォブル信号を高品位に再生する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 絶対時間情報に基づいて蛇行させたトラックを有する光ディスクからの反射光を検出する、少なくとも前記光ディスクの半径方向に 2 分割された受光面を有する光検出器と、前記光検出器の 2 つの受光面で検出された第 1 及び第 2 の出力信号のレベル差を出力する演算増幅器と、前記演算増幅器の出力信号からリードレベル成分をサンプリングするサンプルホールド回路とを備え、前記サンプルホールド回路の出力に基づいて前記トラックに対応するウォブル信号を再生するウォブル信号再生装置において、
前記演算増幅器の前段に、前記第 1 及び第 2 の出力信号に含まれるリードレベル成分よりも大レベルの信号成分をマスクするクランプ回路を備えたことを特徴とするウォブル信号再生装置。

【請求項 2】 前記クランプ回路と前記サンプルホールド回路との間に、前記光ディスクの偏心周波数より高く前記ウォブル信号の周波数よりも低いカットオフ周波数を備えたハイパスフィルタを設けたことを特徴とする請求項 1 に記載のウォブル信号再生装置。

【請求項 3】 絶対時間情報に基づいて蛇行させたトラックを有する光ディスクと、前記光ディスクに光ビームを照射する光ビーム照射手段と、前記光ディスクからの反射光を受光するための、前記光ディスクの半径方向に分割された少なくとも二つの受光面を有する光検出器と、前記二つの受光面によりそれぞれ検出される第 1 及び第 2 の出力信号に基づいて前記トラックの蛇行に対応するウォブル信号を再生するウォブル信号再生回路とを有し、前記ウォブル信号再生回路が、前記第 1 及び第 2 の出力信号のレベル差を出力する演算増幅器と、前記演算増幅器の出力信号からリードレベル成分をサンプリングするサンプルホールド回路とを備え、前記サンプルホールド回路の出力に基づいて前記トラックに対応するウォブル信号を再生する光ディスク装置において、
前記演算増幅器の前段に、前記第 1 及び第 2 の出力信号に含まれるリードレベル成分よりも大レベルの信号成分をマスクするクランプ回路を備えたことを特徴とする光ディスク装置。

【請求項 4】 前記クランプ回路と前記サンプルホールド回路との間に、前記光ディスクの偏心周波数より高く前記ウォブル信号の周波数よりも低いカットオフ周波数を備えたハイパスフィルタを設けたことを特徴とする請求項 3 に記載の光ディスク装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、CD-R、CD-RW 等の情報の書き込み可能な光ディスクのトラックからウォブル信号を再生するためのウォブル信号再生装置及びこれを備えた光ディスク装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種の光ディスク装置には、いわゆる追記型の光ディスクを使用して所望の情報を書き込み（記録）できるようになされたものがある。例えば光ディスクとして CD-R を使用する光ディスク装置においては、有機色素系の記録層に光ビームを照射してピットを形成することにより、所望の情報を一度だけ記録することができる。

【0003】 一方、この種の光ディスクは、情報の再生時よりも記録時の方がトラッキングが難しく、ディスク上に何らかのガイドが必要とされる。そこで、図 8 に示すように光ディスク 1 には、予め僅かな振幅で蛇行（ウォブル）したトラック（プリグループ）2 がスパイラル状に形成されており、このトラック 2 に絶対時間情報（ATIP: Absolute Time In Pregroove）を記録している。つまり、ATIP 情報はトラック 2 を蛇行（ウォブル）させることにより記録され、このウォブル信号を再生して得られる ATIP 情報に基づいて情報の記録／再生が行われる。ウォブル信号は、22.05 kHz（標準速）の搬送波信号をアドレスデータで周波数変調され、その信号レベルは RF 信号に対して最低 -40 dB である。

【0004】 光ディスク装置においては図 9 に示すように、光ディスク 1 の半径方向及びトラック方向に受光面を 4 分割した光検出器 4 で光ディスク 1 からの反射光を受光し、これらの受光結果に基づいてウォブル信号を検出することにより、この周波数 22.05 kHz の搬送波信号を基準にしてスピンドルモータを回転駆動する。これにより例えば CLV 記録方式の光ディスクでは線速度一定で回転駆動され、トラック 2 上にピット 3 が形成されることによって所望の情報が記録される。

【0005】 さて、従来のウォブル信号再生回路の構成を図 10 に示す。光ビーム照射手段より照射されるメインビームの L（図 8）の反射光を受光する光検出器 4 は、上述したように光ディスク 1 の半径方向及びトラック方向に 4 分割された受光面 A、B、C 及び D からなり、各々信号 AIN、BIN、CIN 及び DIN を出力する。このうち、受光面（A+D）の出力信号が第 1 の出力信号を構成し、受光面（B+C）の出力信号が第 2 の出力信号を構成する。

【0006】 記録中のウォブル信号を取り出す構成については、メディアの種類等によって反射光強度レベルの粗調整を行うゲインコントロール増幅器（以下、GCA という。）5A~5D、K { (A+D) - (B+C) }（K: 定数）の演算を行う演算増幅器 6、リード（Read）レベルをサンプリングするサンプルホールド回路（S/H）7、高域ノイズ除去用のローパスフィルタ（LPF）8、低域ノイズ除去用のハイパスフィルタ（HPF）9、増幅器 10、記録済／（未記録、記録中）で切り換わるスイッチ回路 11、ウォブル周波数を取り出すバンドパスフィルタ（BPF）12 及び、ウォブル信号

を一定振幅にするための AGC (Automatic Gain Control) 回路 13 からなる。

【0007】なお、記録済ディスクの再生中のウォブル信号を取り出す構成については、GCA5A~5Dの直ぐ後段にハイパスフィルタ 14A~14D が設けられ、以降、 $\alpha(A+D)$ 、 $\alpha(B+C)$ (α : 定数) の演算をそれぞれ行う加算増幅器 15、16、ハイパスフィルタ 17、18、AGC 19、20 及び、 $\beta\{\alpha(A+D) - \alpha(B+C)\}$ (β : 定数) の演算を行う減算増幅器 21 が設けられ、スイッチ回路 11 から後の構成は、上述と同様である。

【0008】図 11 に光検出器 4 の出力信号の波形を示す。出力波形はピークレベル、ピットレベル、ボトムレベル及びリードレベルからなり、各受光面の出力信号 AIN~DIN は全て同相である。ウォブル信号は上記リードレベルにのる。

【0009】記録中のウォブル信号は、第 1 の出力信号 (A+D) と第 2 の出力信号 (B+C) とで逆相で検出されるので、理想的には、演算増幅器 6 にて第 1 の出力信号 (A+D) と第 2 の出力信号 (B+C) の出力の差分をとることにより、RF 成分を除去してウォブル信号のみを抽出することができる。具体的には、第 1 及び第 2 の出力信号の差分をとった後、サンプルホールド回路 7 によりリードレベルをサンプリングし、ローパスフィルタ 8 及びハイパスフィルタ 9 でノイズ成分を除去し、バンドパスフィルタ 12 を介してウォブル周波数を取り出すことによってウォブル信号を得ることができる。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、光ディスク装置に光ディスク 1 を装着する時に生ずる中心位置のずれ及び、ディスク形成時に生じたトラック 2 の位置ずれからなる偏心によって、光検出器 4 の出力 AIN~DIN の中に、RF 成分、ウォブル成分及び偏心成分が含まれることになる。偏心成分は、図 12A、B に示すように逆相の信号となる。演算増幅器 6 は、第 1 の出力信号 (A+D) と第 2 の出力信号 (B+C) の出力差を増幅すると同時に、偏心成分をも増幅する。

【0011】その結果、偏心レベルが所定以上になると、図 12C に示すように演算増幅器 6 を構成するアンプの出力ダイナミックレンジが足りなくなり、ピットレベル信号時にアンプの帰還が切れてしまう (信号が飽和してしまう)。アンプの帰還が切れてしまうと、図 13 に示すようにリードレベルに復帰するのに時間を要することになる。高速記録時では信号周波数も高くなり、サンプル可能なリードレベルの時間が短くなるために (図中 S1→S2)、高速記録になればなるほどこの帰還復帰時間が問題となり、最悪の場合には次段のサンプルホールド回路 7 で正確なリードレベルの検出が困難となり、ウォブル信号を再生することができなくなるという問題が生ずる。

【0012】今後、記録速度が益々高速化すると、これに伴ってライトパワーも上昇し、演算増幅器 6 を構成するアンプの出力ダイナミックレンジが足りなくなる可能性が更に一層顕著となる。

【0013】本発明は上述の問題に鑑みてなされ、ディスクの偏心成分による影響を低減してウォブル信号再生の適正化を図ると共に、高速記録にも対応させることができるウォブル信号再生装置及び光ディスク装置を提供することを課題とする。

10 【0014】

【課題を解決するための手段】以上の課題を解決するに当たり、本発明は、第 1 及び第 2 の出力信号のレベル差を演算する演算増幅器の前段に、第 1 及び第 2 の出力信号に含まれるリードレベル成分よりも大レベルの信号成分をマスクするクランプ回路を備えたことを特徴としている。

【0015】この構成により、第 1 及び第 2 の出力信号は、リードレベル成分よりも大レベルの信号成分がマスクされた状態で上記演算増幅器に入力されるため、偏心成分が大きい場合でも演算増幅器の出力振幅を従来よりも低減することができ、これによりウォブル信号を高品位に再生することができる。また、高速記録にも対応することが可能となる。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0017】図 1 は本発明の実施の形態による光ディスク装置 25 の要部の構成を示している。光ディスク 1 は追記型であって、絶対時間情報 (ATIP) に基づいて蛇行させたトラックが形成されており、スピンドルモータ 26 により例えば線速度一定で回転駆動される。光ディスク 1 の記録面と対向する位置には光ビーム照射手段及び光検出器としての光ピックアップ 27 が配置されている。光ピックアップ 27 は、送りモータ 28 により、光ディスク 1 の半径方向に駆動制御される。スピンドルモータ 26 の回転制御、送りモータ 28 の送り制御及び光ピックアップ 27 のフォーカス制御等は、サーボコントローラ 29 により行われる。

【0018】光ディスク 1 からの反射光信号は、図示しない EFM 復調回路に送られると共に、後述するウォブル信号再生装置 30 に送られてウォブル信号が再生される。また、反射光信号は図示しないフォーカスエラー信号生成回路及びトラッキングエラー信号生成回路に送られてフォーカスエラー信号及びトラッキングエラー信号がそれぞれ生成される。

【0019】光ピックアップ 27 の受光面は、従来と同様、図 9 に示したような 4 分割フォトダイオードで構成され、(A+D) と (B+C) が光ディスク 1 のトラック方向を境として光ディスク 1 の半径方向に 2 つに分割される受光面を構成し、(A+B) と (C+D) がトラ

ック方向に2つに分割される受光面を構成する。なお
(A+D)及び(B+C)信号はトラッキングエラー信号
の生成及び後述するウォブル信号の再生に用いられ、
(A+B)及び(C+D)信号はフォーカスエラー信号
の生成に用いられる。

【0020】次に、本発明に係るウォブル信号再生装置
30の構成について図2を参照して説明する。ここで、
本実施の形態のウォブル信号再生装置30は、1つの半
導体チップ(IC)で構成されている。

【0021】図2は、本実施の形態によるウォブル信号
再生装置30の回路構成を示している。メインビームL
(図1)の反射光を受光する光ピックアップ27は、上
述したように光ディスク1の半径方向及びトラック2方
向に4分割された受光面A、B、C及びDからなり、各
々信号(電圧信号)A IN、B IN、C IN及びD IN
を出力する。このうち、受光面(A+D)の出力信号が
第1の出力信号を構成し、受光面(B+C)の出力信号
が第2の出力信号を構成する。

【0022】記録中のウォブル信号を取り出す構成につ
いては、メディアの種類等によって反射光強度レベルの
粗調整を行うゲインコントロール増幅器(以下、GCA
という。)35A~35D、 $K\{(A+D)-(B+C)\}$ (K:定数)の演算を行う演算増幅器36、出力
信号のリード(Read)レベルをサンプリングするサンプ
ルホールド回路(S/H)37、高域ノイズ除去用のロー
パスフィルタ(LPF)38、低域ノイズ除去用のハイ
パスフィルタ(HPF)39、増幅器40、記録済/
(未記録、記録中)で切り換わるスイッチ回路41、ウ
ォブル周波数を取り出すバンドパスフィルタ(BPF)
42及び、ウォブル信号を一定振幅にするためのAGC
(Automatic Gain Control)回路43からなる。

【0023】ここまでの構成は図10を参照して説明し
た従来のウォブル信号再生回路の構成と同様であるが、
本実施の形態では、GCA35A~35Dと演算増幅器
36との間に、第1及び第2の出力信号に含まれるリー
ドレベル成分よりも大レベルの信号成分をマスクするク
ランプ回路34A~34Dと、光ディスク1の偏心周波
数よりも高くウォブル信号の周波数よりも低いカット
オフ周波数を備えたハイパスフィルタ44A~44Bが設
けられている。

【0024】なお、記録済ディスクの再生中のウォブル
信号を取り出す構成については、偏心成分の除去を目的
とした上記ハイパスフィルタ44A~44D、 $\alpha(A+D)$ 、 $\alpha(B+C)$ (α :定数)の演算をそれぞれ行う
加算増幅器45、46、加算増幅器45、46によるオフ
セット除去を目的としたハイパスフィルタ47、4
8、振幅一定を目的とするAGC49、50及び、 β
 $\{\alpha(A+D)-\alpha(B+C)\}$ (β :定数)の演算を
行う減算増幅器51が設けられ、スイッチ回路11から
後の構成は、上述と同様である。

【0025】本実施の形態は以上のように構成され、次
にこの作用について説明する。

【0026】光ディスク1の偏心により、光ピックアッ
プ27の出力信号が図12A、Bに示したような出力波
形を呈するものとする。これらの出力は、各々クランプ
回路34A~34Dへ供給され、図3A、Bに示すよう
にリードレベルより大レベルの信号成分がマスキングさ
れて出力される。ここで、図3Aは第1の出力信号A I
N及びD INの出力波形を示し、図3Bは第2の出力信
号B IN及びC INの出力波形を示している。

【0027】クランプ回路34A~34Dの出力信号は
各々ハイパスフィルタ44A~44Dへ供給される。ハ
イパスフィルタ44A~44Dによって各出力波形A I
N~D INは、図4A、Bに示すように偏心周波数を含
む低い周波数成分が除去される。その結果、偏心振幅
(レベル)がVから半分のV/2に低減される(図3
A、B及び図4A、B)。ここで、図4Aは第1の出力
信号A IN及びD INの出力波形を示し、図4Bは第2
の出力信号B IN及びC INの出力波形を示している。

【0028】このとき、光ディスク1の標準速における
偏心周波数を8Hz、ハイパスフィルタ44A~44D
のカットオフ周波数を10kHz(ウォブル周波数2
2.05kHz(標準速))とした場合、偏心成分の振
幅レベルを6dB低減できることが確認されている。

【0029】これにより、第1の出力信号A IN及びD
INと第2の出力信号B IN及びC INとのレベル差を
演算する演算増幅器36の出力振幅は、従来回路にお
ける演算増幅器6と同じゲイン(K)において、図5に示
すように従来(図12C)よりも大幅に低減される。す
なわち、演算増幅器36を構成するアンプの出力レンジ
を超えることなく(アンプの帰還が切れることなく)、
信号を出力することが可能となる。

【0030】したがって、次段におけるサンプルホー
ルド回路37において出力信号のリードレベルのサンプ
リングを常に適正に行うことができるため、従来よりも
ウォブル信号の再生品位を向上させることが可能となる。
また、記録速度の高速化に伴ってライトレベルが増大し
ても、アンプの出力ダイナミックレンジ内で信号を出力
することができるので、高速書き込みにも十分に対応
した光ディスク装置25を構成することができる。

【0031】図6はローパスフィルタ38の出力波形を
示し、図7はハイパスフィルタ39の出力波形を示して
いる。また、各図において一点鎖線は図10に示した従
来回路による出力波形を示しており、実線で示す本実施
の形態の方が偏心振幅が低減されていることが認められ
る。

【0032】以降、増幅器40及びスイッチ回路41を
介して出力信号がバンドパスフィルタ42に供給され、
ウォブル信号の周波数成分が抽出される。そして、AG
C43によってウォブル信号成分の振幅レベルが一定と

された後、再生されたウォブル信号が図示しない処理回路へ供給される。

【0033】以上のように本実施の形態によれば、クランプ回路34A～34D及びハイパスフィルタ44A～44Dによって、第1及び第2の出力信号のレベル差を出力する演算増幅器36の出力ダイナミックレンジに対する信号レベルにマージンを与えることができるので、サンプルホールド回路37よりも前の段階でゲインを上げることができ、これによりウォブル信号の再生品位を向上させることができる。

【0034】また同時に、偏心ノイズだけでなく、サンプルホールド回路37のノイズの影響及び、それ以降の回路ノイズの影響をも低減することができる。特に本例では、ハイパスフィルタ39までのゲインを最低でも従来よりも6dB上げることができる。

【0035】更に本実施の形態によれば、ハイパスフィルタ44A～44Dを、記録済ディスク再生時のウォブル信号抽出回路を構成するハイパスフィルタと共用することができるので、当該ハイパスフィルタを別途配置することなく既存の（従来回路の）回路構成を援用することができ、回路構成が複雑化することなく、低コストで本発明を実施することができる。

【0036】以上、本発明の実施の形態について説明したが、勿論、本発明はこれに限定されることなく、本発明の技術的思想に基づいて種々の変形が可能である。

【0037】例えば以上の実施の形態では、第1及び第2の出力信号のレベル差を出力する演算増幅器36の前端にクランプ回路34A～34D及びハイパスフィルタ44A～44Dを配置した構成例について説明したが、クランプ回路34A～34Dのみによっても演算増幅器36の出力ダイナミックレンジに対する信号レベルにマージンを与えることができるので、サンプルホールド回路37前のゲインを上げることができる。この場合、サンプルホールド回路37のノイズの影響及び、それ以降の回路ノイズの影響について低減することができる。

【0038】また、以上の実施の形態では、本発明に係るハイパスフィルタ44A～44Dをクランプ回路34A～34Dと演算増幅器36との間に配置したが、これに代えて、当該ハイパスフィルタ44A～44Dを、演算増幅器36とサンプルホールド回路37との間に配置してもよい。この場合にも、上述と同様な効果を得ることができる。

【0039】更に、以上の実施の形態では、光検出器としての光ピックアップ27の受光面をA～Dの4分割構成としたが、ウォブル信号を再生する構成だけ考慮すれば、少なくとも光ディスク1の半径方向に2分割された受光面を有する構成でも本発明は適用可能である。

【0040】

【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば、以下の効果を得ることができる。

【0041】すなわち本発明のウォブル信号再生装置によれば、偏心成分が大きくても演算増幅器の出力振幅を小さくすることができるので、従来よりもゲインを上げてサンプルホールド回路以降のノイズの影響を低減し、ウォブル信号の再生品位を向上させることができる。

【0042】請求項2の発明によれば、サンプルホールド回路以降のノイズの影響だけでなく、偏心成分（ノイズ）の信号レベルをも低減することができ、ウォブル信号の再生品位を更に一層向上させることができる。

【0043】また、本発明の光ディスク装置によれば、偏心成分が大きくても適正にウォブル信号を再生することができるので、高速書き込みにも十分に対応することができる。

【0044】請求項4の発明によれば、サンプルホールド回路以降のノイズの影響だけでなく、偏心成分（ノイズ）の信号レベルをも低減することができ、ウォブル信号の再生品位を更に一層向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態による光ディスク装置の要部の構成を示す図である。

【図2】本発明の実施の形態によるウォブル信号再生装置の回路構成図である。

【図3】同ウォブル信号再生装置のクランプ回路（34A～34D）の出力波形例を示す図であり、Aは第1の出力信号の波形を示し、Bは第2の出力信号の波形を示している。

【図4】同ウォブル信号再生装置のハイパスフィルタ（44A～44D）の出力波形例を示す図であり、Aは第1の出力信号の波形を示し、Bは第2の出力信号の波形を示している。

【図5】同ウォブル信号再生装置の演算増幅器（36）の出力波形例を示す図である。

【図6】同ウォブル信号再生装置のローパスフィルタ（38）の出力波形例を示す図である。

【図7】同ウォブル信号再生装置のハイパスフィルタ（39）の出力波形例を示す図である。

【図8】光ディスクに形成されるトラックの構成を示す説明図である。

【図9】光ディスクに形成されるトラックと光検出器の受光面との関係を示す説明図である。

【図10】従来のウォブル信号再生装置の回路構成図である。

【図11】光ディスクの反射光の出力波形を示す図である。

【図12】偏心成分を含む第1及び第2の出力波形例を示す図であり、Aは第1の出力信号、Bは第2の出力信号、Cは従来回路における演算増幅器の出力波形例、をそれぞれ示す。

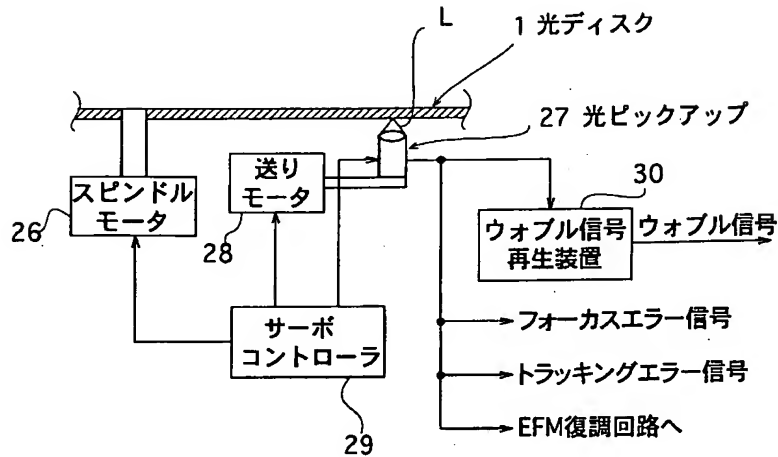
【図13】アンプの帰還復帰の遅延を説明する模式図である。

【符号の説明】

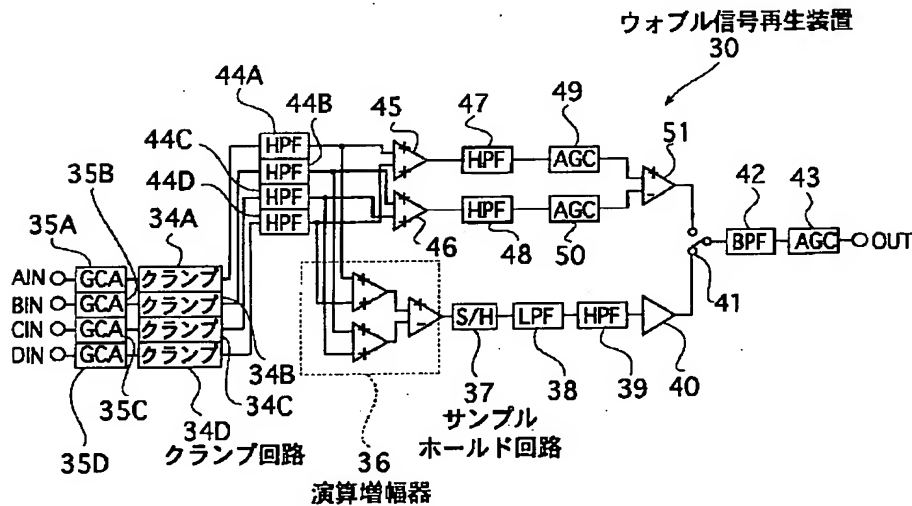
1…光ディスク、2…トラック、25…光ディスク装置、27…光ピックアップ（光ビーム照射手段、光検出

器）、30…ウォブル信号再生装置、34A～34D…クランプ回路、36…演算増幅器、37…サンプルホールド回路、44A～44D…ハイパスフィルタ。

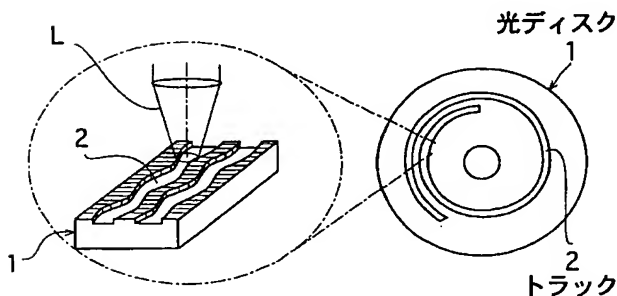
【図1】



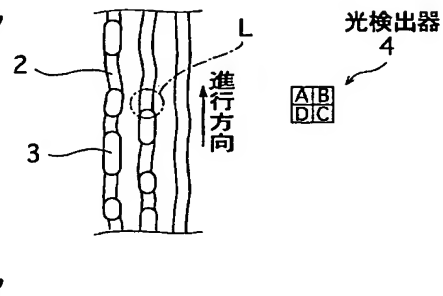
【図2】



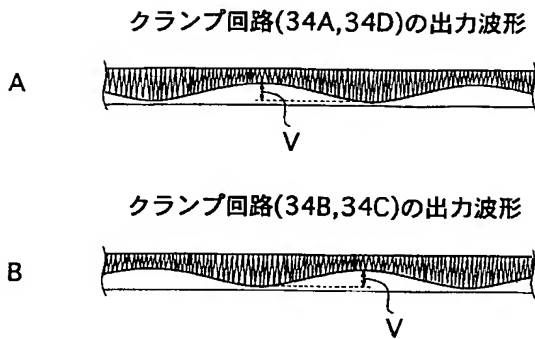
【図8】



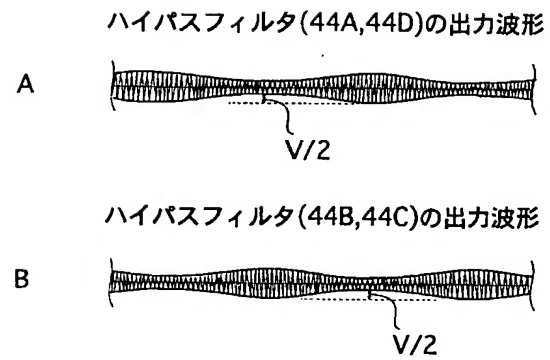
【図9】



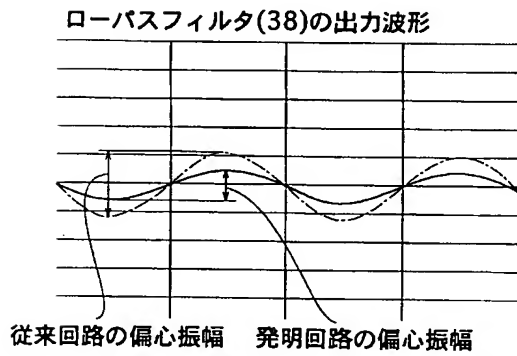
【図 3】



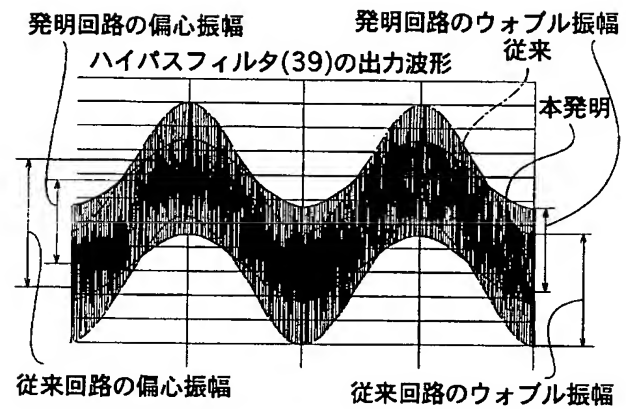
【図 4】



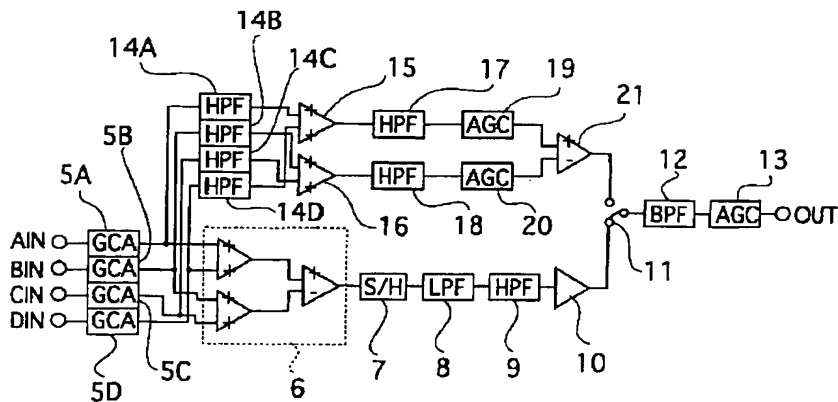
【図 6】



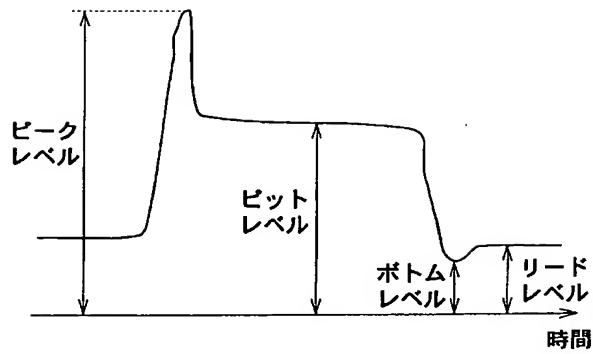
【図 7】



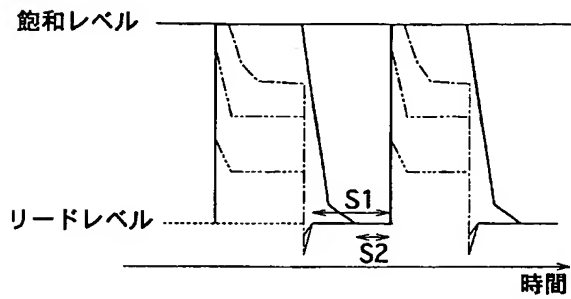
【図 10】



【図 1 1】



【図 1 3】



【図 1 2】

AIN,DINの出力波形

A



BIN,CINの出力波形

B



従来回路における演算増幅器の出力波形

C

